

(様式1-1)

シーニックバイウエイルート提案書(変更)

平成27年5月25日

シーニックバイウエイ北海道推進協議会長 殿

宗谷シーニックバイウエイルート運営代表者会議

代表 中場 直見



以下のとおり、シーニックバイウエイルートの提案(変更)を行います。

記

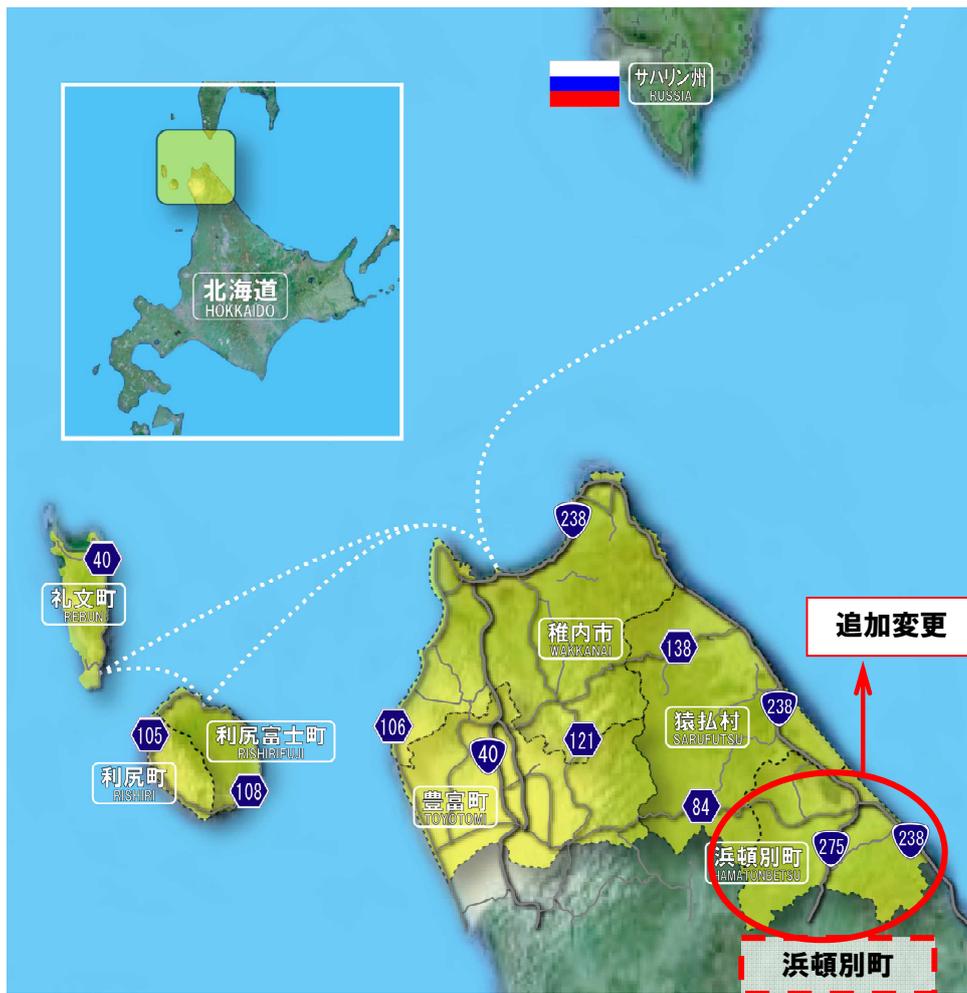
代表者名	中場 直見	
代表者の所属	未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会	
代表者の住所	稚内市末広5丁目2番23号 (宗谷バス株式会社)	
代表者の連絡先	電話 0162-32-5151	FAX 0162-32-5353
担当者名*	杉川 毅	
担当者の所属*	未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会	
担当者の住所*	稚内市中央4丁目2-15 稚内印刷株式会社	
担当者の連絡先*	電話 0162-23-3258	FAX 0162-24-0224
ルート名	宗谷シーニックバイウエイ	
構成団体数	25(変更数記載)団体	
関係市町村名	稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、 浜頓別町	
※ルート運営活動計画とは別に、基幹となるルートが明示された参考図(様式1-2)を添付してください。	計(7)市町村	
提案の種類	<input checked="" type="checkbox"/> シーニックバイウエイルート	<input type="checkbox"/> シーニックバイウエイ候補ルート
必要書類	<input checked="" type="checkbox"/> ルート運営活動計画(変更) <input checked="" type="checkbox"/> 関係市町村長の意見(変更) <input checked="" type="checkbox"/> 変更理由書 <input type="checkbox"/> 候補ルート登録時における付帯意見の対応表	<input type="checkbox"/> ルート運営活動計画の骨子
備考		

追加

※代表者以外が連絡窓口となる場合には、担当者名の氏名・住所・連絡先もご記入ください。

以上

基幹ルート



■宗谷ニークニックバイウェイ

関係市町村	稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、 浜頓別町	
主な幹線道路	一般国道自動車専用道路	一般国道 40 号 (豊富バイパス)
	国道	一般国道 40 号 一般国道 238 号 一般国道 275 号
	道道	主要道道豊富浜頓別線 (道道 84 号) 主要道道稚内天塩線 (道道 106 号) 主要道道稚内幌延線 (道道 121 号) 主要道道豊富猿払線 (道道 138 号) 主要道道礼文島線 (道道 40 号) 主要道道利尻富士利尻線 (道道 105 号) 主主要道道杓形仙法志鷺泊線 (道道 108 号) 一般道道豊牛下頓別停車場線 (道道 586 号)
	その他	本ルートには一般道路以外にもフェリー航路等景観の良い場所が多数ある。これらの管理者や地域の関係者と連携を図り、地域の資源として保全・活用していくことを考える。

変更理由書

この度、浜頓別町を拠点とする「浜頓別町商工会」、「浜頓別町観光協会」、「NPO法人クツチャロ湖エコワーカーズ」より、宗谷シーニックバイウェイへの参加申し込みがあったことから、構成自治体に浜頓別町を追加するために変更申請をいたします。

「浜頓別町観光協会」、「浜頓別町商工会」、「NPO法人クツチャロ湖エコワーカーズ」は、産業、観光、自然環境等の分野において、関係機関や関係者との連携を図りながら、地域活性化のため、様々な活動を推進しており、道を通して宗谷シーニックバイウェイルートとの連携により地域の更なる発展に寄与することを目指します。

今後、シーニックバイウェイルートの活発化に寄与するため、浜頓別町を構成自治体として追加し、活動の目標である「宗谷の景観と環境を守り育てることで、他地域の差別化」、「宗谷に関する情報をつなぎ、あたたかいおもてなしを提供」に向けた取り組みを行っていきます。

浜産商第15号
平成27年5月8日

シーニックバイウェイ北海道
宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議
代表 中場 直見 様

浜頓別町長 菅原 信 男



宗谷シーニックバイウェイ
ルート運営活動計画変更に対する意見照会について (回答)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、浜頓別町の加入に向け誠意努力を賜り心より感謝を申し上げます。貴ルートの事業活動に対する取り組みにつきましては、当町および宗谷管内の地域振興に大きく寄与する取り組みとして期待され、また「協働のまちづくり」の一環として、地域住民が主役となる活動であり、当町としても支援をして参りたいと思います。

今後は、当該事業に対し積極的な協力をして参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

担当：浜頓別町産業振興課
商工観光係 酒向
TEL 01634-2-2346
FAX 01634-2-4766

宗谷シーニックバイウェイ ルート運営活動計画の見直し経緯

年度	宗谷シーニックバイウェイ	ルート運営活動計画
平成 18 年	・ 審査委員会の視察受入 ・ 活動計画を推進協に提出	・ 活動計画を策定 ・ 活動計画に対して関係市町村の首長から意見照会
平成 19 年	・ 指定ルートに認定	
平成 20 年		
平成 21 年	・ 稚内市歴史・まち研究会が参加	・ 活動団体の追加
平成 22 年		
平成 23 年		
平成 24 年		
平成 25 年		
平成 26 年	・ 活動計画の見直しを行うワークショップ、ルート運営代表者会議を開催（H26.10月 H27.3月）	・ 活動計画を全面的な見直し ・ 見直しした活動計画について、関係市町村の首長から意見照会

※宗谷シーニックバイウェイルート運営活動計画＝活動計画

※シーニックバイウェイ北海道推進協議会＝推進協

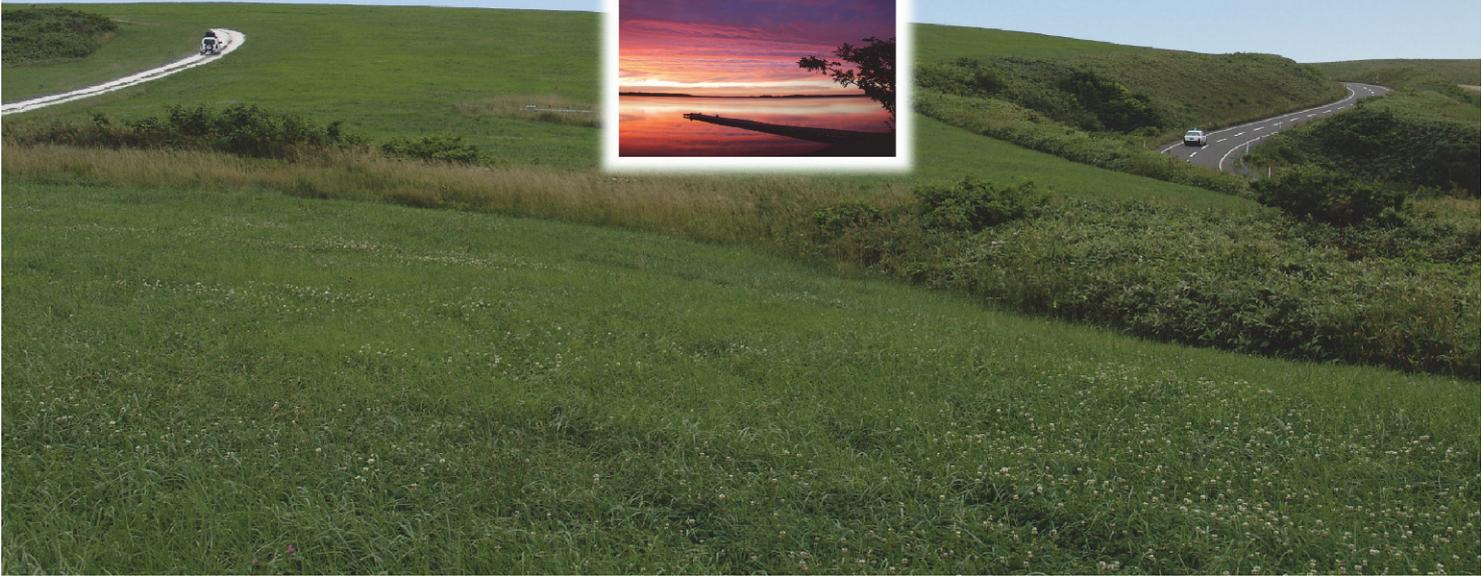
※シーニックバイウェイ北海道推進協議会ルート審査委員会＝審査委員会

＜平成26年度 改訂概要＞

- 浜頓別町の参加によりルートエリアが拡大し、7市町村に変更（6市町村→7市町村）
- 浜頓別町のロード名を追加（はまとんべつスワットンロード、はまとんべつゴールドラッシュロード）
- 浜頓別町を拠点に活動する「浜頓別町商工会」「浜頓別町観光協会」「NPO 法人クッチャロエコワーカーズ」の参加により、活動団体に追加
- 景観、環境、観光、情報の4つの目標、方針を定め、これまで活動を進めていたが、密接な関連性がある景観・環境、観光・情報の2つの目標、方針に変更した
※目標・方針は、これまでの目標・方針を基本に、活動団体との議論による意見を反映した。
- 個別活動団体の課題や取組み等の基礎情報を更新
- ルート代表や幹事などの役員を変更
- 参考資料として、計画の達成度や平成26年度までの経緯、ロゴについて追加



こんな場所に
来たかった・・・



宗谷シーニックバイウエイ ルート運営活動計画

平成27年4月<見直し改訂版>
宗谷シーニックバイウエイ ルート運営代表者会議

- はじめに -

均整の取れた美しさを色とりどりの四季や見る場所、そして夕日によってドラマチックなシーンを演じてくれる利尻富士を有する宗谷は、最北の街稚内市や花の浮島と謳われる礼文島、そして広大な高層湿原であるサロベツ原野、ホタテと酪農が盛んで北海道一広い村猿払村、ラムサール条約湿地クッチャロ湖を有する浜頓別町が、北緯45度の日本最北エリアを形成しております。

この最北エリアは、本州であれば2000m級の高山でしか見られないような可憐な植物が低地でも見ることができ、北海道でも唯一の固有種も多彩です。また、産業景観としても牧草ロールが点在する放牧地帯は広大で、大自然の恵みの中で育っている牛たちの姿は、まるで北欧を彷彿させる景観を形成しています。

優れているのは景観ばかりではなく、カニをはじめとする食材も豊富で、出汁昆布として有名な利尻昆布、そしてその昆布で育ったウニは絶品を極め、貝の王様ホタテ貝など、逸品の魚や貝類の食材は大きな魅力です。

このように、宗谷シーニックバイウェイは東京・大阪・名古屋などの都市圏からは遠く離れた地域がゆえに憧れの地と称されており、自然景観、抜群の食材など、これら宗谷の持つファクターをハートフルなおもてなしで、シーニックを通じた連携によって魅せていくことで、日本最北地域という距離的ハンデを克服し、当地域ならではの魅力づくりを目指します。道路とともにフェリー航路もバイウェイとして位置付け、宗谷らしいバリエーションとして独自の魅力を演出していきます。

また訪日外国人旅行者2000万人のさらなる高みを目指し、近年は、宗谷シーニックバイウェイとしても、外国人旅行者の誘致に力を入れていきます。

平成27年4月

宗谷シーニックバイウェイ運営代表者会議

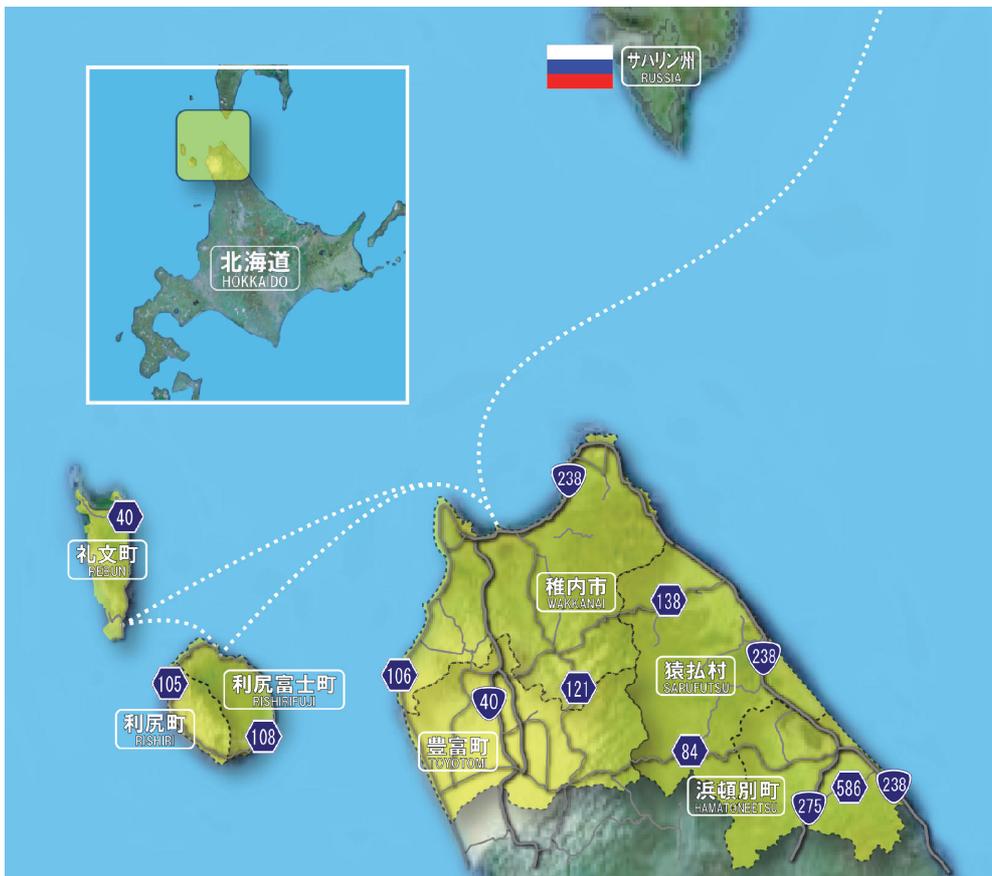
代 表 中 場 直 見

1. 宗谷地域の位置及びエリア

宗谷シーニックバイウエイルートは、日本の最北端、**宗谷総合振興局**に位置し、稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、**浜頓別町**の7市町村にまたがるエリアです。

主に関係する道路として、一般国道自動車専用道路である豊富パイパス、豊富町から稚内市に向かう一般国道 40 号、稚内市から猿払村に向かう一般国道 238 号、**浜頓別町から音威子府に向かう国道 275 号**のほか、道道や利尻島・礼文島を結ぶフェリー航路があります。

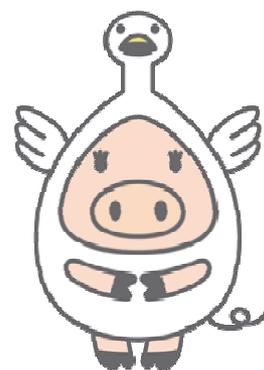
関係市町村	稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、 浜頓別町	
主に関係する道路 ※ルート内の全ての道路が活動の対象となるが、ここでは主な道路について記載する。	一般国道自動車専用道路	一般国道 40 号(豊富パイパス)
	国道	一般国道 40 号(稚内国道)
		一般国道 238 号
		一般国道 275 号
	道道	豊富浜頓別線(道道 84 号)
		稚内天塩線(道道 106 号)
		稚内幌延線(道道 121 号)
		豊富猿払線(道道 138 号)
		礼文島線(道道 40 号)
		利尻富士利尻線(道道 105 号)
その他	杓形仙法志鷺泊線(道道 108 号)	
	豊牛下頓別停車場線(道道 586 号)	
その他	本ルートには一般道路以外にもフェリー航路等景観の良い場所が多数ある。これらの管理者や地域の関係者と連携を図り、地域の資源として保全・活用していくことを考える	



12)はまとんべつスワットンロード



クッチャロ湖に舞い降りる美しい白鳥のように、浜頓別町に幸せを運ぶ妖精「スワットン(浜頓別町公式キャラクター)」の名前がついたルートです。クッチャロ湖やベニヤ原生花園など、希少な自然が楽しめます。



はまとんべつスワットンロード



— 凡例 —

空港	道道	観光・文化施設	キャンプ場	公園
フェリーターミナル	国立公園・道立自然公園	体験施設	景観	
国道		温泉	史跡	

■特に優れた資源

《ラムサール条約指定地 クッチャロ湖》

- ☞ クッチャロ湖とその周辺湿地には、春と秋にコハクチョウをはじめとしたカモ類が集まり、夏にはオジロワシやカワセミなどが子育てに利用し、冬にはオオワシや海ガモ類が渡ってきます。
クッチャロ湖に舞い降りる美しい白鳥のように、浜頓別町に幸せを運ぶ妖精「スワットン(公式マスコットキャラクター)」もときどき、姿を現します。

《ベニア原生花園》

- ☞ 園内では、5月～8月にかけて、湿地・海岸・高山植物が100種類以上も見る事ができる天然の花園です。また、日本では、道北でしか子育てをしていないツメナガセキレイなどの野鳥や町の文化財に指定しているコモチカナヘビも生息しています。北オホーツク道立自然公園にも指定されています。

《クローバーの丘》

- ☞ クッチャロ湖を望む丘一帯の草原が、時期的にクローバーの群生地となっており、遠くにはオホーツク海を望むことができ、絶景が見られます。丘にある「幸福の鐘」を鳴らすと幸せになれると噂されています。

《斜内山道》

- ☞ 枝幸町との境界にある標高439mの斜内山道から海に突き出た風光明媚な岬です。山道を通り突端へ出ると輝くオホーツク海の雄大な風景が広がります。アイヌ民族の神聖な場所として、大切にされていた歴史があり、平成22年に「ピリカノカ 神威岬(カムイエトゥ)」の名で国の名勝に指定されています。また、冬には、流氷が接岸します。

《ポン沼》

- ☞ 国道238号から、道道浅茅野台地浜頓別線を進むと右側にポン沼があります。名称の由来は、アイヌ語の「ポン(小さい)」からきています。周囲3km程の沼です。森林管理署の入林許可を受ければ、遊歩道の散策も行え自然がそのまま残る神秘的な景色が楽しめます。

《海産物・乳製品》

- ☞ オホーツク海では、冬の流氷が豊富なプランクトンを運んでくるため、美味しい鮭、毛がに、ホタテ、たこ、カレイなど海の恵みがふんだんに獲れ、水産加工品や牛乳を使った乳製品が町の特産となっています。また、釣りも盛んで夏から秋にかけては、海岸が鮭釣り客でいっぱいになります。



《クッチャロ湖》



《ベニア原生花園》



《クローバーの丘》



《斜内山道》



《ポン沼》



《海産物・乳製品》

■特徴ある観光・参加型体験資源

《クッチャロ湖》

- ☞ 春と秋には多くの白鳥がクッチャロ湖に渡ってきます。湖畔では、白鳥の餌を販売しており直接白鳥に給餌ができます。夏には、無料でカヌーの貸し出しを行っており湖からの景色を楽しむことができます。また、キャンプ場も整備され湖に沈む美しい夕焼けを見ながら、バーベキューを楽しむ事もできます。

《ベニヤ原生花園》

- ☞ 330haの園内には遊歩道が整備され、ゆったりとした時間を過ごしながら、自然の草花と鳥の声を存分に楽しむことができます。シーズンには、フラワーガイドによるガイドを受ける事もできます。



《クッチャロ湖》



《クッチャロ湖水鳥観察館》

■特徴ある地域・文化資源

《クッチャロ湖水鳥観察館》

- ☞ ラムサール条約登録湿地において、湿地の価値の普及啓発及び水鳥、湿地のモニタリングの拠点として環境省により設置されました。クッチャロ湖に飛来する水鳥などの情報を発信しています。



《はまとんべつ温泉》

《はまとんべつ温泉》

- ☞ 「美人の湯」と銘打っているはまとんべつ温泉は、良質の天然温泉です。クッチャロ湖を一望できる「はまとんべつ温泉ウイング」及び「温泉付コテージ」は、自然を楽しむ滞在客に人気です。

《ハルニシの木》

- ☞ 国道275号、下頓別地区に樹齢500年とされるのハルニシの木があります。昭和48年に北海道の記念保護樹木に指定されています。老木のため、近くには寄りませんが、太い幹と空を覆う雄大な姿に長い歴史を感じる事ができます。



《ハルニシの木》

《カシワ林群生地》

- ☞ 国道238号、豊浜から斜内の海岸にカシワ林が群生しています。道の学術自然保護地区に指定され、これだけ広く群生するのは珍しいとされています。

《竜頭の松》

- ☞ 市街地にあるお寺「浄覚寺」の敷地内にある「竜頭の松」は、昭和49年道の記念保護樹木に指定されています。



《竜頭の末》

《市民風車「はまかぜちゃん」》

- ☞ 国道238号、頓別から斜内に向かう直線道路沿いに、日本初の市民風車「はまかぜちゃん（愛称）」1基が設置されました。設置にあたっては、野鳥や人への配慮がされ、民間設置の4基と共にオホーツク海の風を受けて回っています。目の前が海、回りを牧場に囲まれた中にそびえ立つ真っ白な風車はとても美しく見えます。



《市民風車「はまかぜちゃん」》

13)はまとんべつゴールドラッシュロード



明治31年に砂金が発掘されて以来、「東洋のクロンダイク」と言われ、3度のゴールドラッシュがあった“ウソタンナイ”エリアのルートです。今では、ウソタンナイ砂金掘公園として、砂金掘体験やキャンプなどが楽しめます。

また、川に遡上する鮭・マスを狙って11月から3月頃、400羽～500羽のオオワシ・オジロワシが集まる「オオワシの森」も見ごたえがあります。

はまとんべつゴールドラッシュロード



— 凡 例 —

空港	道道	観光・文化施設	キャンプ場	公園
フェリーターミナル	国立公園・道立自然公園	体験施設	景観	
国道		温泉	史跡	

■特に優れた資源

《ウソタンナイ砂金採掘公園》

- ☞ 明治31年に砂金が発掘されて以来、「東洋のクロンダイク」と言われ砂金掘りに沸き、3度のゴールドラッシュがありました。現在も、川で砂金が取れるため、公園とキャンプ場を整備し、期間中は多くの愛好者や観光客が来園しています。



《ウソタンナイ砂金採掘公園》

《オオワシの森》

- ☞ 頓別の河畔にあるオオワシの森には、川に遡上する鮭・マスを狙って11月から3月頃、400羽～500羽のオオワシ・オジロワシが集まります。1本の木に40羽程のワシが止まる「ワシの成る木」は、見ごたえがあります。



《オオワシの森》

■特徴ある観光・参加型体験資源

《ウソタンナイ砂金採掘公園》

- ☞ 日本古来の砂金掘り技法である「ゆり板」と「カッチャ」を使った砂金掘りが体験出来ます。天候に左右されずに楽しめる水槽掘りもあり、初心者にも楽しめます。

■特徴ある地域・文化資源

《ゴールドハウス》

- ☞ 砂金掘りの受付、技術指導などを行っています。ゴールドラッシュ当時の写真や当地で産出した日本最大の砂金塊のレプリカも展示し、砂金の歴史を紹介しています。また、民芸品の販売や、取れた砂金の加工などを行っています。開館6～9月。



《ゴールドハウス》

《金山神社（跡地）》

- ☞ かつて砂金採掘が盛んな時期に建てられた神社が、現在も3.3㎡に満たない石垣上に、石碑と標注が残っており、金山神社は浜頓別町文化財として指定されています。

◆ハートランドフェリー株式会社



代表者名: 蔦井 孝典
 発足日: 昭和 40 年 7 月
 従業員数: 120 名
 (臨時雇用者除く)

◆主な取組み

- 利尻島・礼文島～稚内港への旅客定期航路事業
- 奥尻島～江差港・瀬棚港への旅客定期航路事業

◆活動や取組みにおける課題

- 地域の観光振興に対して企業として参画。
- 稚内観光協会及び利尻島・礼文島の各観光協会や各種観光関連団体を応援。

◆今後の活動や取組みの予定

- 多様化する国内観光需要及びインバウンド誘致に柔軟に対応していきます。

◆浜頓別町商工会



代表者名: 中村 忠勝
 発足日: 昭和 36 年 1 月
 会員数: 135 名

◆主な取組み

- 地域内の商工業の複合的な発達、社会一般福祉の増進、国民経済の健全な発達に資することを目的とした取組み

◆活動や取組みにおける課題

-

◆今後の活動や取組みの予定

- 経済改善普及事業
- 地域振興事業
 - ・町及び観光協会主催の事業(イベント等)への協力(北オホーツク100kmマラソン大会・クッチャロ湖水まつり等)

◆浜頓別町観光協会



代表者名: 大野 充博
 発足日: 昭和 年 月 日
 会員数: 135 名

◆主な取組み

- 地域観光振興を目的とした情報発信や案内、また、地域の資源を活用したイベントによる誘客などの観光に関する各種事業

◆活動や取組みにおける課題

- 地域観光資源を活かした事業を、継続実施する。
- 各イベントは、それぞれの目的(ターゲット)を明確にし実施する。
- 観光地及びイベント情報を、町内外に情報発信する。
- 観光施策及び観光基盤の整備推進に努める

◆今後の活動や取組みの予定

- バードフェアの実施(4月～12月)
- 第52回クッチャロ湖湖水まつり開催(7月12日)
- 2015ウソタン砂金フェスティバル開催(8月9日)
- ふるさとまつり in 浜頓別2015開催(10月4日)
- 他、観光誘致宣伝及び交流事業の推進

◆NPO 法人クッチャロエコワーカーズ



代表者名：毛利 秀敬
 発足日：平成 18 年 6 月
 会員数： 名

◆主な取組み

- クッチャロ湖を「学ぶ」、「護る」、「広める」活動
- 森林や湿原の保全活動・野生動植物の保護活動・河川湖沼浄化活動と自然体験学習などを通じ子供の健全育成を図る活動

◆活動や取組みにおける課題

➢

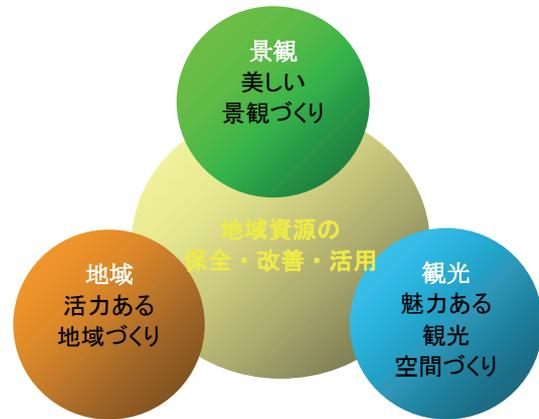
◆今後の活動や取組みの予定

- 森林や湿原、野生動植物の保護活動
- 河川湖沼浄化活動と自然体験学習

4. ルートストーリー実現に向けた活動

(1)各活動の目標

宗谷シーニックバイウェイでは、シーニックバイウェイ北海道全体の目的である、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」を実現するために、テーマと7つのルートストーリーを設定しています。



ルートのテーマ：あたたかい最北のみち

ルートストーリー

- Story1* 日本の最北端の変化に富んだ四季が演出する雄大な自然景観を見る。
- Story2* 活気・魅力ある『宗谷の素晴らしさ』を伝えるべく、より良い環境づくりを。
- Story3* 北海道遺産の指定地や、『次世代に遺したい宝物』を歴史探訪する。
- Story4* この地でしか味わえない『宗谷らしさ』を体験する。
- Story5* 都会では決して味わえない『一番旨い海の幸・山の幸』を、食す。
- Story6* 宗谷の厳しい自然と共に暮らす、動植物や人々とのふれあいを感じる。
- Story7* 日本のおてっぺんと花夢を結ぶ航路の中での一期一会がある。

このルートストーリーを実現するために、**景観・環境、情報・観光**の2つのテーマをもった活動を進めていきます。

(2)各活動の方針及び取組み

1)景観・環境に関わる活動

活動の目標： 宗谷の景観と環境を守り育てることで、他地域との差別化を図る

日本最北端に位置する宗谷が有する自然は、四季折々が織りなすドラマチックなシーンが存在しています。夏季は高山系植物の植生が海拔0mから観察でき、大規模な酪農景観が雄大さをみせてくれます。そうして利尻山を中心とした宗谷らしい景観は、見る場所・季節・時間などで様々な表情を演出してくれます。また厳冬期には、アザラシやトド・オオワシなど北海の海ならではの動物たちが逞しく生きている様も見るすることができます。このような、景観と環境を住んでいる人々、訪れる人々が手を取り合って、守り育てる環境づくりを目指します。

方針1・・・宗谷らしい自然景観や環境の保全と活用

- 取組み①：宗谷らしい景観や環境が体感できるポイントの創出と磨き上げ
- 取組み②：地場産業との連携による景観・環境の保全
- 取組み③：景観を美しくみせ、環境を守る清掃活動
- 取組み④：景観や環境を保全するルールづくり
- 取組み⑤：フェリー乗り場での泥落とし等外来種混入防止と駆除活動

方針2・・・住む人と来る人(交流人口)の幸せを共感できる環境づくり

- 取組み①：住民と観光客が双方プラスになる宗谷エコレージなどのプログラムの推進
- 取組み②：CO2を削減するシーニックの森等の植栽活動の推進
- 取組み③：おもてなしを演出する春・夏・秋の季節に応じた植栽活動
- 取組み④：アイスキャンドルやスノーキャンドルによる冬の彩りの演出
- 取組み⑤：流氷を活用したプランターづくり

方針3・・・次世代が安心して豊かな生活がおくれる地域づくり

- 取組み①：宗谷の素晴らしさに対する認識向上及び啓発のための勉強会の開催
- 取組み②：地域の将来を担う子供たちへの教育活動
- 取組み③：地域コミュニケーション形成のための、ボランティアの育成



《スノーキャンドル》



《景観分科会の様子》



《環境分科会の様子》

3)情報・観光に関わる活動

活動の目標： 宗谷に関する情報をつなぎ、あたたかいおもてなしを提供する

宗谷は、大都市から遠く離れているうえに、利尻・礼文とは陸続きでないなど、「ひと」や「もの」が交流する上での地理的な障壁となっている面があります。一方、恵まれた自然・観光資源は、国内・国外からみても第1級の資源と言えます。このような資源を多くの方に、五感で堪能いただけるように、心からのおもてなしを表現することを目標とした「宗谷のおもてなし運動」を進め、さらに北海の食材資源を地域の特産品とし、「心に感動を与える」サービスを目指していきます。

方針1・・・特異な地理条件(利尻・礼文)を克服する情報発信

- 取組み①：観光案内所及び情報ボランティア等コミュニケーションによる情報提供
- 取組み②：既存ツール（ネットやSNS）及び紙媒体（ポスター等）を活用した情報発信の充実
- 取組み③：オンリーワンの情報発信内容・方法の検討と実施
- 取組み④：ルート及び情報発信場所における看板等の設置
- 取組み⑤：宗谷らしいシンボリックなデザインの提案

方針2・・・宗谷の魅力(底力)を磨き上げ十分に提供できるおもてなしの育成

- 取組み①：空港やフェリーターミナルなどの宗谷の玄関口におけるおもてなしの演出
- 取組み②：宗谷らしさが体感できる参加型・体験型のメニューづくり
- 取組み③：物産等の地域限定商品の発掘及び供給システムづくり
- 取組み④：景観や環境が体感できるポイントの活用とルートづくり
- 取組み⑤：フットパスやサイクリングなど新たなツーリズム創出
- 取組み⑥：既存の観光資源磨き上げによる新たな魅力の向上
- 取組み⑦：外国人観光及び教育・体験旅行の誘致

方針3・・・地域の問題をみんなで解決するシーニックバイウェイの連携強化

- 取組み①：分科会活動及び団体活動の情報共有・連絡のためのシステムづくり
- 取組み②：地域の課題を共有し解決策などを考える勉強会やシンポジウムの開催
- 取組み③：地域の将来を担う子供たちへの教育活動を通じた地域づくり
- 取組み④：次世代の宗谷地域、シーニックを担う人材の発掘・育成
- 取組み⑤：情報やおもてなしを行うボランティアの発掘・育成



《さいほくネット》



《情報分科会の様子》



《観光分科会の様子》

5. ルートの運営

(1) ルート運営方針

1) 地場産業との連携

宗谷は、漁業と酪農が盛んな地域であり特に水産品は一級品です。この漁業や酪農との連携として、ウニの殻むき体験や、昆布干し体験などで体験型観光メニューが人気を集めています。これらは基幹産業であり、地域の景観を形成している大切な要素であり、連携することによって新たな景観を形成していくことができます。

また、その他のサービス業や観光に関わる業種、宿泊業などとも情報を共有し、来訪者へのサービスの向上を図ります。

2) 各団体との情報共有及び管内外への総合的な展開

宗谷シーニックバイウェイには、対象エリアの7つの自治体の観光協会が加盟しておりますので、それぞれが集約している観光情報を共有し、各情報発信拠点（案内所・道の駅）から発信すると同時に、景観・環境分科会との連携を図りながら、宗谷管内外への総合的な展開に取り組んでいきます。



3)自己啓発及び地域浸透のための勉強会・シンポジウム等の実施

2つの分科会（景観・環境、情報・観光）が広域的かつ有機的に連携し、継続的な取組みを展開するためには、メンバー自身の啓発とともに、さらに地域への浸透を図っていくことが重要なポイントになります。各分科会の活動テーマに沿った勉強会やシンポジウムを各エリアで開催します。

4)次世代の育成や宗谷のネットワーク強化に向けた連携

宗谷シーニックバイウェイが指定ルートとなり、平成27年で10年目を迎えます。今後の宗谷地域を担う、次世代の発掘と育成とともに、「ひと」のネットワーク強化に向けて、観光や地域づくりに携わる若い世代を中心として、勉強会やワークショップを開催し連携を強化します。

なお、ルート運営活動計画の見直しにあたっては、宗谷地域の若い世代を中心としたワークショップ「しゃべり場」を開催し、見直しに関する検討を行いました。

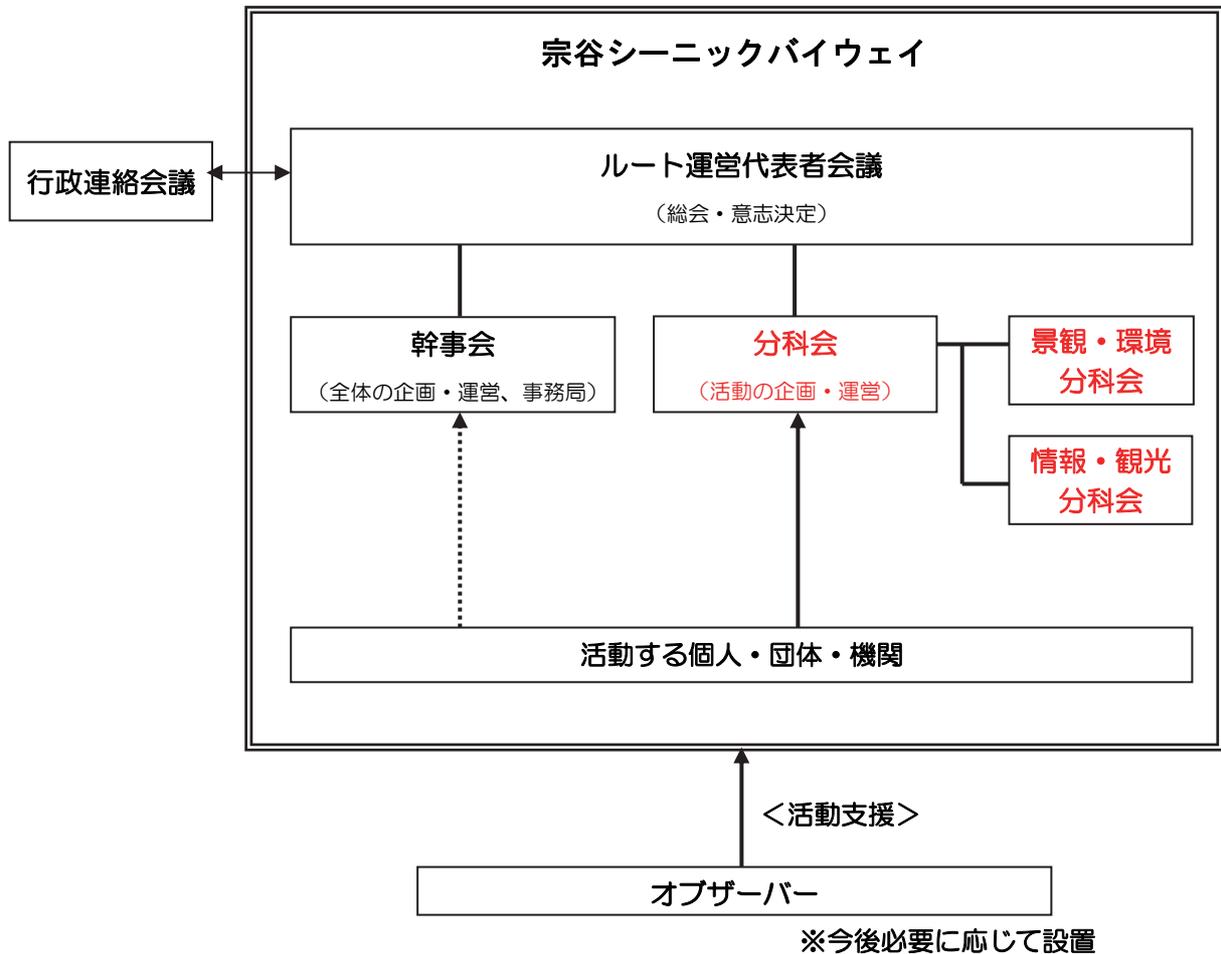


《ワークショップ「しゃべり場」》

(2) 運営体制とその役割

1) 運営体制図

当面のルート運営は、以下の運営体制図で推進することとします。



2) 組織構成とその役割

① ルート運営代表者会議・総会

ルート運営代表者会議は、ツーリング環境・航路・散策路など宗谷地域における自然・景観・文化・歴史など様々な資源を理解し、それぞれの資源と共生を図りながら広域的な観点で個性豊かな魅力づくりを目指すことを目的としており、この目的に賛同できる住民・活動団体・関係機関等で構成されています。

②幹事会

幹事会は、各地域の代表者で構成され、ルート運営代表者会議の企画・運営を行うことを役割とします。

【役員構成】

役職	氏名	所属
代表	中場 直見	未来のくらしと宗谷路((ネットワーク)を考える会
副代表	谷原 一郎	未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会
	横澤 輝樹	稚内みなとまちづくり懇談会 代表幹事
幹事	吉井 繁	稚内観光協会会長代理
	西森 功	豊富町観光協会会長
	鳥谷部 徹雄	猿払村観光協会会長
	谷 智治	利尻町観光協会 会長
	藤田 豊彦	利尻富士町観光協会 会長
	久保 和夫	礼文町観光協会 会長
事務局長	杉川 毅	未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会
事務局	木村 正志	稚内観光協会 事務員
	斎藤 通義	未来のくらしと宗谷路(ネットワーク)を考える会
監査	鈴木 雄一	稚内商工会議所 事務局長

事務局：稚内観光協会 事務局

〒097-0022

北海道稚内市中央3丁目6番1号 キタカラ 1階

TEL：0162-24-1216

FAX：0162-24-0016

Mail：info@welcome.wakkanai.hokkaido.jp

③分科会

分科会は、景観・環境・情報・観光の4分科会とし、地域住民・活動団体・関係機関の代表者で構成し、それぞれのテーマに沿った運営・企画・研究・活動等を行うことを役割とします。

No	活動団体名	所属分科会	
		景観・環境	情報・観光
1	NPO法人 映像コミュニティ・ムーブユー	○	○
2	猿払イトウの会	○	
3	宗谷建設青年会	○	
4	未来の暮らしと宗谷路（ネットワーク）を考える会	○	○
5	利尻島を考える会		○
6	利尻富士町宿泊業組合		○
7	稚内観光協会青年部		○
8	稚内商工会議所	○	○
9	稚内青年会議所	○	
10	稚内のみなとを考える女性ネットワーク	○	
11	稚内ホテル旅館業組合		○
12	稚内みなとまちづくり懇談会	○	
13	フラワーマスター稚内	○	
14	稚内市歴史・まち研究会	○	
15	（一社）稚内観光協会	○	○
16	豊富町観光協会	○	○
17	猿払村観光協会	○	○
18	利尻富士町観光協会	○	○
19	利尻町観光協会	○	○
20	礼文町観光協会	○	○
21	宗谷バス株式会社		○
22	ハートランドフェリー株式会社		○
23	浜頓別町商工会	○	
24	浜頓別町観光協会		○
25	NPO 法人クッチャロエコワーカーズ	○	

④その他

この他、ルートの運営に関し代表が必要と判断した場合は、組織の構成・召集を行い開催します。

(3)行政との連携

地域住民・活動団体・関係機関等の情報収集や情報発信のため、稚内開発建設部・宗谷支庁・稚内建設管理部・稚内市・猿払村・豊富町・浜頓別町・利尻富士町・利尻町・礼文町との連携を図りながら、運営を行います。